

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-12152

(P2010-12152A)

(43) 公開日 平成22年1月21日 (2010.1.21)

(51) Int.Cl.
A 4 5 D 26/00 (2006.01)F I
A 4 5 D 26/00

テーマコード (参考)

C

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-176898 (P2008-176898)
(22) 出願日 平成20年7月7日 (2008.7.7)(71) 出願人 394018432
株式会社グリーンベル
大阪府大阪市淀川区東三国4丁目8番13号
(74) 代理人 100072213
弁理士 辻本 一義
(74) 代理人 100119725
弁理士 辻本 希世士
(74) 代理人 100129975
弁理士 上野 康成
(72) 発明者 杉山 幹年
大阪府大阪市淀川区東三国4丁目8番13号 株式会社グリーンベル内

(54) 【発明の名称】 挟み具

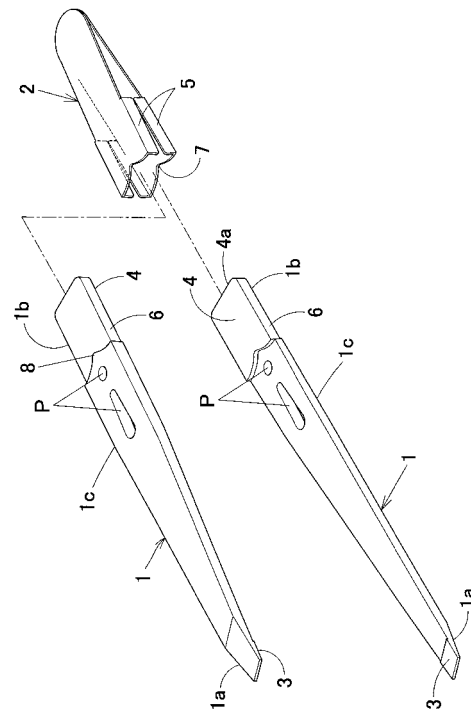
(57) 【要約】

【課題】毛やトゲなどを抜こうとする場合に、毛やトゲなどを確りと挟もうとして、操作部を手指で強く押圧しすぎても、毛やトゲの挟み面積が変わることなく、毛やトゲが滑らないようにすると共に、切れないようにして、毛やトゲを確実に引き抜くことのできる挟み具を提供する。

【解決手段】曲げ変形し難い細長い一对の板状体1のそれぞれの一端を挟み部1aとすると共に、これら板状体1のそれぞれの他端を支点部1bとし、これら挟み部1aと支点部1bの間を操作部1cとし、前記挟み部1aの内面を平面とした挟み面3とし、前記支点部1bの内面を平面とした当接面4とし、前記挟み面3どうしおよび当接面4どうしを重ね合わせたときに、これら挟み面3どうしおよび当接面4どうしが密着するようにし、さらに前記支点部1bに、前記板状体1どうしが離反する方向にバネ付勢する弾性体2を連結したものとしている。

。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

曲げ変形し難い細長い一对の板状体(1)のそれぞれの一端を挟み部(1a)とすると共に、これら板状体(1)のそれぞれ他端を支点部(1b)とし、これら挟み部(1a)と支点部(1b)の間を操作部(1c)とし、前記挟み部(1a)の内面を平面とした挟み面(3)とし、前記支点部(1b)の内面を平面とした当接面(4)とし、前記挟み面(3)どうしおよび当接面(4)どうしを重ね合わせたときに、これら挟み面(3)どうしおよび当接面(4)どうしが密着するようにし、さらに前記支点部(1b)に、前記板状体(1)どうしが離反する方向にバネ付勢する弾性体(2)を連結したことを特徴とする挟み具。

10

【請求項 2】

前記板状体(1)を弓なりに湾曲させ、前記挟み面(3)どうしおよび当接面(4)どうしを重ね合わせたときに、操作部(1c)の内面どうしが接触せず、これらの間に隙間(S)が生じるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の挟み具。

【請求項 3】

前記挟み面(3)と当接面(4)を、同一平面上に設けたものとしたことを特徴とする請求項 1 または 2 記載の挟み具。

【請求項 4】

前記挟み面(3)を挟み部(1a)の内面に突出させて設けると共に、前記当接面(3)を支点部(1b)の内面に突出させて設けたことを特徴とする請求項 1 ~ 3 の何れかに記載の挟み具。

20

【請求項 5】

前記弾性体(2)を二枚の弾性板の一端どうしを接合して基端とし、他端どうしを開放した開放端としたものとし、これら開放端のそれぞれの両側に設けた把持片(5)で、前記支点部(1b)の両側に設けた側壁(6)を把持すると共に、前記開放端のそれぞれの先端側に設けた凹部(7)を、前記支点部(1b)のそれぞれの外面側に設けた凸部(8)に嵌め込んだことを特徴とする請求項 1 ~ 4 の何れかに記載の挟み具。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

この発明は、毛やトゲなどを抜くときに用いる毛抜き、各種の小物などを挟むときに用いるピンセット等の挟み具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種の挟み具は、例えば図 8、9 に示すように、挟み体 11 と把持体 12 よりなるものとしている。挟み体 11 は、弾性金属板よりなり、二股とした弾性挟み脚 13、13 の先端部を挟み部 13a、13a とし、後端部を固着部 13b、13b とし、中間部前半を操作部 13c、13c とし、中間部後半を挿入部 13d、13d としている。把持体 12 は、合成樹脂材よりなり、前記弾性挟み脚 13、13 間の最適な開き幅に設定された開口 14a を形成すると共に、弾性挟み脚 13、13 の固着部 13b、13b の固着溝 14b を形成した挿入穴 14 を有したものとしている。

40

【0003】

そして、前記挟み具は、挟み体 11 の弾性挟み脚 13、13 を後端部側から把持体 12 の挿入穴 14 に挿入し、弾性挟み脚 13、13 の挿入部 13d、13d の外面を、挿入穴 14 の開口 14a 端に接触させると共に、弾性挟み脚 13、13 の固着部 13b、13b を挿入穴 14 の固着溝 14b に固着したものとしている。

【0004】

さらに、この種の挟み具としては、例えば図 10 に示すような毛抜きが存在し、ステン

50

レスなどの弾性金属板をプレスで打ち抜き細長い板状部材を作り、ハンドル 2 1 に該当する部分にデザインやローレットなどを施こした後にヘッド部 2 2、2 2 の曲げ加工を行うものとしている。次いで、板状部材を U 字形に折り曲げて挟持部 2 3、2 3 を形成するものとしている。ハンドル 2 1、2 1 を別体に形成するときは、端部同士を熔接等で接合するものとしている。

【0005】

そして、前記挟み具は、挟持部 2 3、2 3 が通常開いた状態とし、両挟持部 2 3、2 3 の間を上から下に電極を移動しながら放電加工により、挟持面 2 4、2 4 を形成するものとしている。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 0 1 5 5 7 5 号公報 (図 4、5)

10

【特許文献 2】特開 2 0 0 5 - 2 2 4 4 7 5 号公報 (図 1)

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

上記従来 of 図 8、9 に示した挟み具では、毛やトゲなどを抜こうとする場合には、操作部 1 3 c、1 3 c を手指で押圧し、挟み部 1 3 a、1 3 a を重ね合わせて、これら挟み部 1 3 a、1 3 a の挟み面 1 5、1 5 の間に毛やトゲなど挟み、この状態で引けばよい。

【0007】

さらに、上記従来 of 図 1 0 に示した挟み具でも、毛やトゲなどを抜こうとする場合には、ハンドル 2 1 を手指で押圧し、挟持部 2 3、2 3 を重ね合わせて、これら挟持部 2 3、2 3 の挟持面 2 4、2 4 の間に毛やトゲなど挟み、この状態で引けばよい。

20

【0008】

しかしながら、上記従来 of 何れの挟み具においても、毛やトゲなどを抜こうとする場合に、これらを確認しと挟もうとして、操作部 1 3 c、1 3 c やハンドル 2 1 を手指で強く押圧しすぎると、図 1 1、1 2 に示したように、これら操作部 1 3 c、1 3 c に続く挟み部 1 3 a、1 3 a やハンドル 2 1、2 1 に続く把持部 2 3、2 3 が撓むことによって、挟み面 1 5、1 5 の先端 1 5 a や挟持面 2 4、2 4 の先端 2 4 a が開いてしまい、毛やトゲが挟み面 1 5、1 5 の後端 1 5 b や挟持面 2 4、2 4 の後端 2 4 b で挟まれ、毛やトゲの挟み面積が小さくなって、毛やトゲを引き抜こうとすると滑ってしまったり、また大きな圧力がかかって、毛やトゲを引き抜こうとすると切れてしまうという問題点を有していた。

30

【0009】

そこで、この発明は、上記従来 of 問題点を解決することをその課題としており、毛やトゲなどを抜こうとする場合に、毛やトゲなどを確認しと挟もうとして、操作部を手指で強く押圧しすぎても、毛やトゲの挟み面積が変わることなく、毛やトゲが滑らないようにすると共に、切れないようにして、毛やトゲを確実に引き抜くことのできる挟み具を提供することを目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

そのため、この発明の挟み具は、曲げ変形し難い細長い一対の板状体 1 のそれぞれの一端を挟み部 1 a とすると共に、これら板状体 1 のそれぞれの他端を支点部 1 b とし、これら挟み部 1 a と支点部 1 b の間を操作部 1 c とし、前記挟み部 1 a の内面を平面とした挟み面 3 とし、前記支点部 1 b の内面を平面とした当接面 4 とし、前記挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしを重ね合わせたときに、これら挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしが密着するようにし、さらに前記支点部 1 b に、前記板状体 1 どうしが離反する方向にバネ付勢する弾性体 2 を連結したものとしている。

40

【0011】

そして、この発明の挟み具は、前記板状体 1 を弓なりに湾曲させ、前記挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしを重ね合わせたときに、操作部 1 c の内面どうしが接触せず、これらの間に隙間 S が生じるようにしたものとしている。

【0012】

50

さらに、この発明の挟み具は、前記挟み面 3 と当接面 4 を、同一平面上に設けたものとしている。

【0013】

また、この発明の挟み具は、前記挟み面 3 を挟み部 1 a の内面に突出させて設けると共に、前記当接面 3 を支点部 1 b の内面に突出させて設けたものとしている。

【0014】

さらに、この発明の挟み具は、前記弾性体 2 を二枚の弾性板の一端どうしを接合して基端とし、他端どうしを開放した開放端としたものとし、これら開放端のそれぞれの両側に設けた把持片 5 で、前記支点部 1 b の両側に設けた側壁 6 を把持すると共に、前記開放端のそれぞれの先端側に設けた凹部 7 を、前記支点部 1 b のそれぞれの外面側に設けた凸部 8 に嵌め込んだものとしている。

10

【発明の効果】

【0015】

この発明の挟み具は、以上に述べたように構成されているので、毛やトゲなどを抜こうとする場合に、毛やトゲなどを確りと挟もうとして、操作部を手指で強く押圧しすぎても、毛やトゲの挟み面積が変わることなく、毛やトゲが滑らないようにすると共に、切れないようにして、毛やトゲを確実に引き抜くことができるものとなる。

【0016】

さらに、この発明の挟み具は、毛やトゲ以外の物を挟む場合にも、それらの物の挟み面積が変わることがないので、操作部を手指で強く押圧しすぎても、それらの物に傷などが付き難くなる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、この発明の挟み具を実施するための最良の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【0018】

この発明の挟み具は、曲げ変形し難い細長い一对の板状体 1 と、これら板状体 1 どうしが離反する方向にバネ付勢する弾性体 2 とからなり、この弾性体 2 を前記板状体 1 のそれぞれの端部に連結したものとしている。

【0019】

30

前記板状体 1 は、例えばステンレスなどの厚手の金属板からなり、一端をそれぞれ挟み部 1 a とすると共に、他端をそれぞれ支点部 1 b とし、これら挟み部 1 a と支点部 1 b の間を操作部 1 c としている。なお、この発明の挟み具において、「曲げ変形し難い」とは、使用者が必要以上の手指の力で操作部 1 c を押圧したとしても、板状体 1 が殆ど曲げ変形しない状態をいうものとする。

【0020】

前記板状体 1 の挟み部 1 a の内面は、図示したように全面を平面とした挟み面 3 とし、前記支点部 1 b の内面は、図示したように後方面を平面とするか、または全面を平面とした当接面 4 とし、操作部 1 c を押圧して挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしを重ね合わせたときに、これら挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしが密着するようにしている。なお、前記挟み面 3 と当接面 4 は、図示したように同一平面上に設けられたものとするのが、これらを平面加工する場合にその加工が容易となり好ましいが、同一平面上に設けられたものとしなくてもよい。また、前記支点部 1 b の当接面 4 の外端 4 a どうしは、操作部 1 c を押圧して挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしを重ね合わせる以前から、図示したように接触させておくのが、板状体 1 どうしの位置決めなどにおいて好ましいが、離反させたものとする 것도できる。さらに、前記挟み面 3 の形状は、図示したものでは、角張った四角形にしているが、角が丸まった四角形や楕円形など、毛やトゲが挟み易い形状であればよく、この挟み面 3 の大きさは、5 ~ 10 平方ミリメートル程度としているが、毛やトゲを挟むのに差し支えのない大きさであればよい。また、前記当接面 4 の形状は、図示したものでは、四角形にしているが、当接可能な面であればどのような形状でもよく、

40

50

この当接面 4 の大きさは、5 ～ 20 平方ミリメートル程度としているが、これより大きくすると平面加工に手間がかかり好ましくない。

【0021】

前記板状体 1 は、全体的に僅かに弓なりに湾曲させたものとしており、前記挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしを重ね合わせたときも、操作部 1 c の内面どうしが接触せず、これらの間に任意幅の隙間 S が生じるようにし、前記挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしの密着性を良くするようにしている。なお、前記板状体 1 どうしの湾曲率は、それぞれ等しいものとするのが加工面等において容易となるので好ましいが、異なるものとしてもよい。この場合、前記板状体 1 どうしの湾曲率が等しいか異なるかに係わらず、前記挟み面 3 と当接面 4 は、同一平面上に設けられたものとしたり、同一平面上に設けられたものとしなくてもよいのはいうまでもない。

10

【0022】

さらに、前記板状体 1 は、図示したように操作部 1 c の外面から内面にかけて穿孔した各種形状の孔 P を施したり、操作部 1 c の外面にローレット模様を施したり、または操作部 1 c の外面に着色したりして、装飾のための各種の形状、模様、色彩を付したものとすることができる。

【0023】

また、前記板状体 1 の挟み面 3 は、挟み部 1 a の内面に突出させて設けると共に、前記板状体 1 の当接面 4 も、支点部 1 b の内面に突出させて設けたものとしている。このようにすると、前記板状体 1 を全体的に弓なりに湾曲させたものとしなくても、操作部 1 c の内面どうしが接触せず、これらの間に任意幅の隙間 S が生じるようになり、前記挟み面 3 どうしおよび当接面 4 どうしの密着性が良くなる。

20

【0024】

前記弾性体 2 は、例えばステンレスなどの薄手の一枚の弾性板を中央から折り曲げて、その折り曲げ部を基端とし、他端を任意幅、開放した開放端とするか、このような弾性板を二枚重ねにして、一端どうしを溶接するなどして接合して基端とし、他端を任意幅、開放した開放端としたものとしている。そして、このようにした弾性体 2 は、開放端のそれぞれを、前記板状体 1 のそれぞれの支点部 1 b に連結し、前記板状体 1 どうしが離反する方向にバネ付勢するようにしている。

【0025】

30

前記弾性体 2 を、板状体 1 のそれぞれの支点部 1 b に連結するには、この弾性体 2 の開放端のそれぞれの両側に設けた把持片 5 で、前記支点部 1 b の両側に少し凹ませて設けた側壁 6 を把持すると共に、前記弾性体 2 の開放端のそれぞれの先端側に設けた凹部 7 を、前記支点部 1 b のそれぞれの外面側に設けた凸部 8 に嵌め込んだものとする。このようにすると、前記板状体 1 と弾性体 2 との連結が堅固なものとなり、この発明の挟み具は、長年の使用や頻繁な使用にも耐えることができ、耐久性に優れたものとなる。

【0026】

以上のように構成されたこの発明の挟み具は、毛やトゲなどを抜こうとする場合には、図 3、4 に示した状態から、操作部 1 c を手指で押圧し、挟み部 1 a、1 a を重ね合わせて、これら挟み部 1 a、1 a の挟み面 3、3 の間に毛やトゲなど挟み、この状態で引けばよい。

40

【0027】

この場合に、この発明の挟み具は、毛やトゲなどを確りと挟もうとして、操作部 1 c、1 c のどの部分を手指で強く押圧しすぎても、板状体 1 が曲げ変形し難いので殆ど変形せず、図 5、6 に示したように、挟み面 3、3 の先端が開いてしまうようなことはなく、毛やトゲが挟み面 3、3 の全面で挟まれ、毛やトゲの挟み面積が小さくなることはないので、毛やトゲを引き抜こうとしても滑ってしまうことがなく、また大きな圧力がかかって、毛やトゲが切れてしまうようなこともなく、毛やトゲを確実に引き抜くことのできるものとなる。

【0028】

50

さらに、この発明の挟み具は、前記したような毛やトゲ以外の物を挟む場合にも、それらの物の挟み面積が変わることがないので、操作部 1 c、1 c を手指で強く押圧しすぎても、それらの物に傷などが付き難いものとなる。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図1】この発明の挟み具の一実施形態を示す斜視図である。

【図2】図1に示したこの発明の挟み具の分解斜視図である。

【図3】図1に示したこの発明の挟み具の側面図である。

【図4】図1に示したこの発明の挟み具の断面図である。

【図5】図1に示したこの発明の挟み具を閉じた状態の側面図である。

10

【図6】図1に示したこの発明の挟み具を閉じた状態の断面図である。

【図7】図6に示したこの発明の挟み具の A - A で囲んだ部分の拡大図である。

【図8】従来の挟み具の一例を示す断面図である。

【図9】図8に示した従来の挟み具の弾性挟み脚を把持体から外した状態の断面図である。

。

【図10】従来の挟み具の他の例を示す斜視図である。

【図11】図8に示した従来の挟み具を使用した場合の挟み面の先端状態を示す説明図である。

【図12】図10に示した従来の挟み具を使用した場合の挟み面の先端状態を示す説明図である。

20

【符号の説明】

【0030】

1 板状体

1 a 挟み部

1 b 支点部

1 c 操作部

2 弾性体

3 挟み面

4 当接面

5 把持片

6 側壁

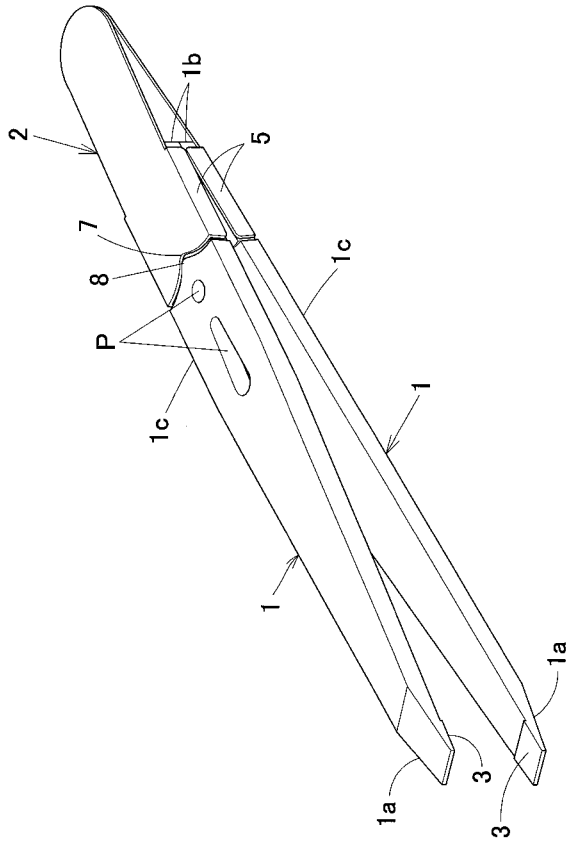
7 凹部

8 凸部

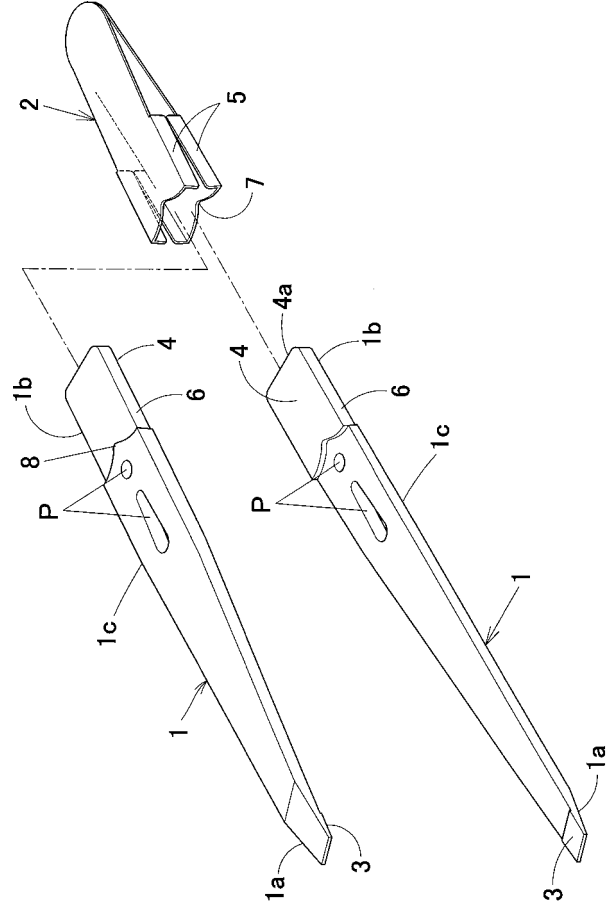
S 隙間

30

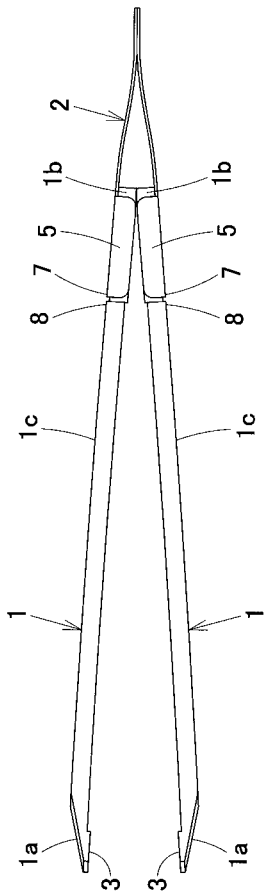
【図 1】



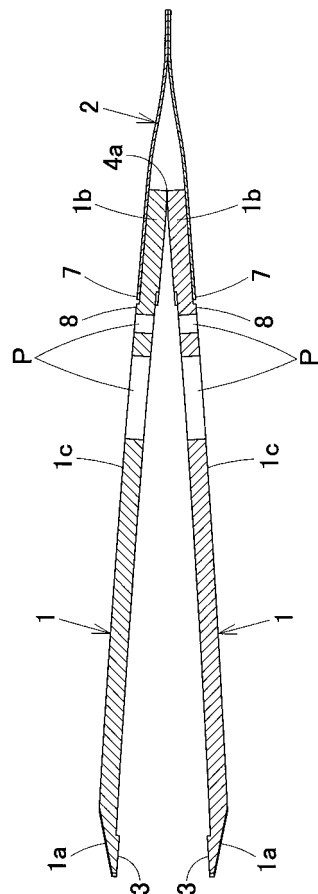
【図 2】



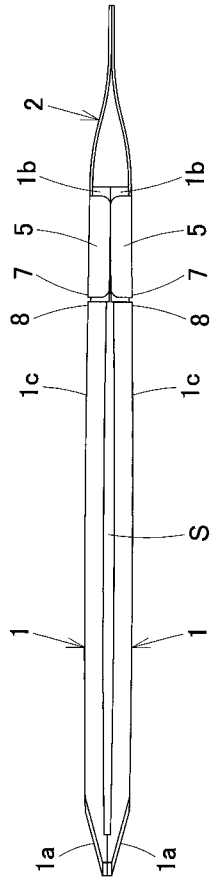
【図 3】



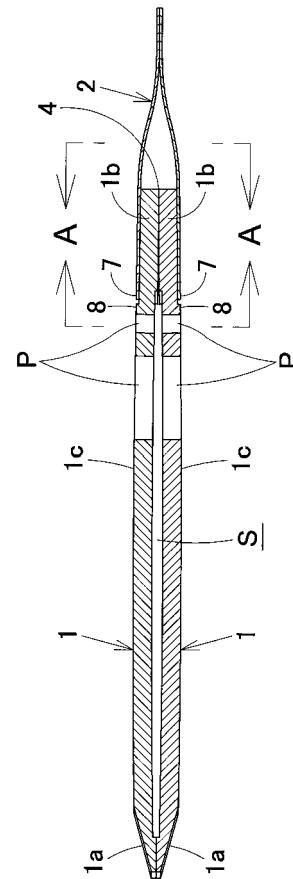
【図 4】



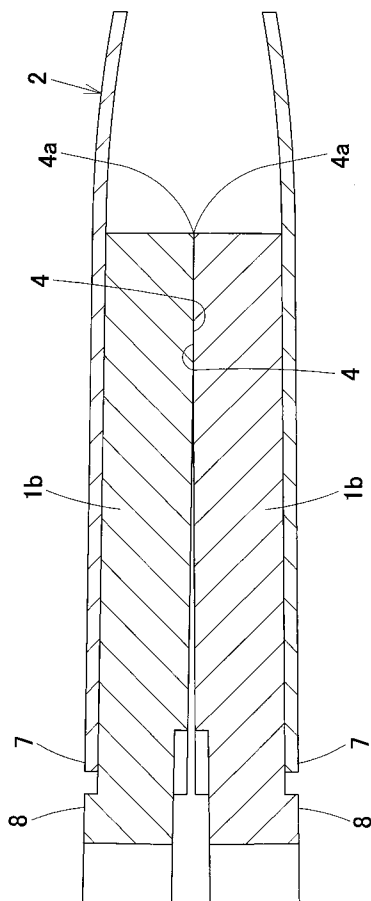
【 図 5 】



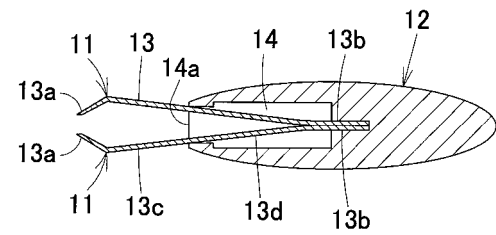
【 図 6 】



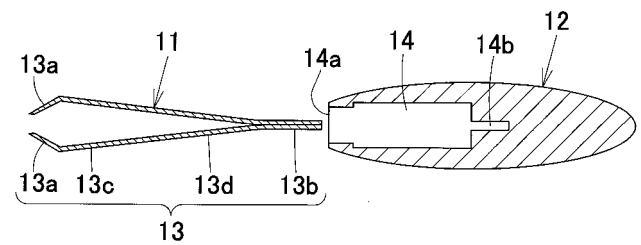
【 図 7 】



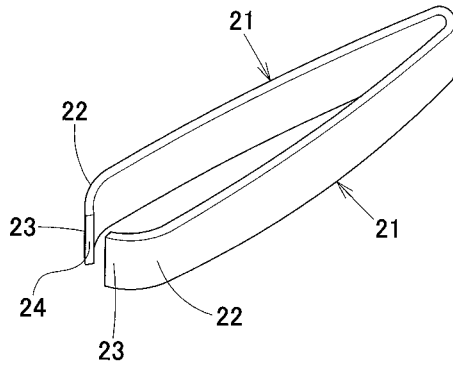
【 図 8 】



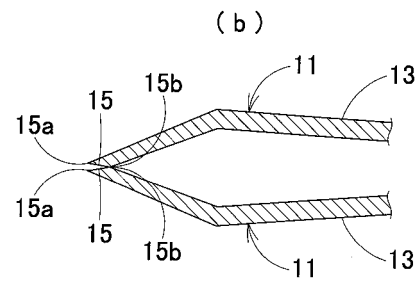
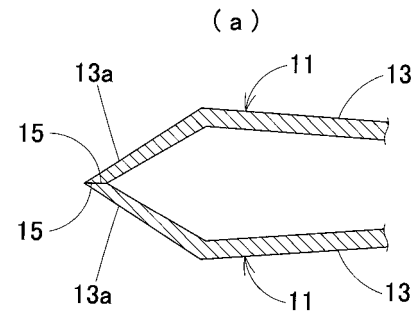
【 図 9 】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

